



「ジェンダーギャップ指数2024」が公表されました

世界経済フォーラム（WEF）は6月11日、男女平等がどれだけ実現されているかを数値化・ランク付けしている「ジェンダーギャップ指数2024」を発表しました。ジェンダーギャップ指数とは、各国の社会進出における男女格差を示す指標を表であり、経済活動や政治への参画度、教育水準、出生率や健康寿命などから算出され、指数が「1」に近いほど格差が少ないとし、毎年公表しています。

▶ジェンダーギャップ指数の順位（総合）

Table showing global gender equality index rankings. Japan is ranked 118th with a score of 0.663.

▶分野ごとの日本のスコア

Table showing Japan's scores by sector: Political (0.118), Economic (0.568), Education (0.993), Health (0.973).

▶各分野小項目ごとの日本のスコア

Detailed table of Japan's scores for various sub-categories like 'Ratio of men and women in parliament' and 'Ratio of men and women in management positions'.

日本は146カ国中118位となり、2023年の125位から7つランクは上昇したものの、主要7カ国（G7）の中では最下位で、東アジア・太平洋地域でも18カ国中17位、という結果となりました。

日本の指数を分野ごとにみると、「政治」分野において前年の138位から113位と順位を上げたものの、総合順位に大きな影響を与えています。

小項目別にみると、「政治」分野では、「国会議員の男女比」が前年の131位から129位、「閣僚の男女比」も同じく前回128位から65位と順位を上げました。

「経済」分野では、123位から120位と若干改善し、小項目別にみると、「同一労働における男女比の賃金格差」は75位から83位と順位を下げたものの、「管理的職業従事者の男女比」は133位から130位と順位を上げました。

「教育」分野は、47位から72位と大きく順位を落とし、小項目別にみると、識字率、中等教育の就学率は、いずれも指数が「1」で「男女平等」と評価されましたが、高等教育就学率の男女比は107位にとどまる結果となりました。

「健康」分野では、59位から58位と若干改善し、「出生時の性別」は前年に引き続き1位で、「健康寿命の男女比」は68位ですが、指数「1」を超える結果が出ています。

WEFは、完全なジェンダー平等が達成されるのは、このままのペースだと134年後（5世代先）になる、と指摘をしています。

●問い合わせ先 政策企画課 政策企画係 ☎68-2211（内線338）



「プラごみ問題」その8

今回は、「3R+OO」のお話です。自治体のごみ削減運動では3R+リフューズ（Refuse）が使われることが多いですが、各企業では3R+リペア（Repair）として4R。または、3R+リフューズ+リターン（Return）の5Rとして取り組んでいます。日本ではまだ、浸透していませんが、海外では+ロット（Rot）を採用した取り組みが行われているようです。いずれのRもエコフレンドリーな循環型社会にするための効果的な取り組みだといえますね。

Table explaining the 3R+OO concept: Refuse (不要物を拒否する), Repair (廃棄せず修理して使用を続ける), Return (使用後、購入元に戻す), Rot (生ごみを堆肥にする).

【ここに注目！】

循環型社会に向けた関連技術の動向に注目。3Rから始まった循環型社会を目指す取り組みは、事業者だけでなく自治体・消費者まで広がっています。制定された法律に基づいて各取り組みを行っていますが、特にプラスチック資源循環法は、容器リサイクル法（容リ法）と合わせて、プラスチック使用量の削減が進められプラスチック使用量が削減された包装や、再生材料へ置き換えた商品も店頭で見かけるようになりました。

認知症地域支援推進員のつぶやき No.72 耳を傾けて 認知症を自分事と考えてみませんか？

施設にいると色々な音を聞きます。車の通る音、人の話し声、電話など生活音のほかにホーホケキョ、ホーホケキョの鶯の鳴き声、ピロピロとひばりの声、最近では、チョットコイ、チョットコイとコジュケイの声、ジジジと燕の声など沢山の鳥の声が聞こえます。利根町は今でも自然がたくさん残っています。鳥の声に季節を感じ、吹く風に天気の変化を予測する。豊かな自然と多様な生き物を身近に感じ、その恵みの中で生かされていることに感謝しています。歳を重ねた今だからこそ感じることもかもしれません。

最近、もし私が認知症になったらどうしてほしいかと想像することも増えました。出来る事はやりたい、働きたい、楽しみたい、自分の思いを伝えたい、そしてなにより信頼の持てる人が一緒にいてほしいと思うのです。認知症の理解が進み、医療の進歩も期待されています。まず、自分事と考えることで認知症の理解の第一歩がスタートすると考えます。それほど、認知症が身近な時代に突入したこと、仕事を通して実感しています。認知症予防のために体操・脳トレを行い、生活習慣病にならないように病院に通う。もう一歩先に自分が認知症になったらと考えることは、なかなか考えたくないと思いますが、例え認知症になったとしても、自分らしく楽しく生活できる利根町であってほしいと心から願っています。そのために、今の自分ができることは、認知症の人の声に耳を傾け、言葉の先にある心の中を聞くことです。人もまた自然の一部ですからね。

私たちはここにいます！

- 認知症地域支援推進員配置施設
●利根町地域包括支援センター ☎68-2211
●利根町保健福祉センター ☎68-8291
●複合福祉施設 響 ☎61-8500
●介護老人保健施設もえぎ野 ☎84-6081